The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 41. NOVEMBER 15TH, 1886.

第四拾壹號

EDITORIAL: Woman's Temperance Association.

LEADING ARTICLE: Social Purity, by FRANCES WILLARD (Translated).

MISCELLANIES: Works of the American women; Does Alcohol warm?; How customs be changed; Home Department.

BIOGRAPHIES: Panthea; A woman: No. IV.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENT.

●社説　婦人矯風會

●論説　黴毒撿査の論（フランセスウイルラルド孃）

●叢話　米國婦人の事業○風俗改良の談○酒は躰を温る乎○いへのとも

●佳傳　パンテア夫を勵ませし事○松嶋佳人傳（第四）

●寄書　女子の進歩（英文）横濱共立女學校一娘○詩二首（中島湘煙女史）○其外

●新報　十五則

●廣告

●珊瑚の玉（十二）

○ホレースワルポールがデッフハルド夫人を稱して佛國當世の最佳人なりと評したる時ハ夫人が八十にして目盲したる後なり。マダムデースタイルが一夫人にして交際社會の要位を占るに至りたるは齢四十五歳に達したる後なり。リカミア夫人が尤も名譽を博したるの時ハ五十歳よ至れる年なり。ハンナモアが世上に非常の評判を得たるは六十となりし頃なり。されば老ひたる女ども決して落膽すべからず

○女に學者なしと云ふ乎、須らくハンナモア、ミスパーチー、ミセスマコーレー、マダムダシーア、マダムデラアフエットを見るべし。女に大著作なしと云ふ乎、古來男子にして未だコリンチ、アダムビーデを著述したる者あらざる也

●三十九號考へ物の解當人は木村とよ、竹内ふみ、藤木龜太郎の三氏なり筆初ハ最下の左方又は最上よりすべし一筆にてよく繞らし得べし、又ばかし畫の顏は八つあるなり

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第四拾壹號
明治十九年十一月十五日

●社説

○婦人矯風會

近日有志の婦人發起して東京府下に婦人矯風會なる者を新設するヿを計畫さるヽと聞く既に去九日同志の婦人四十餘名寅門外の會堂に集會して右設立の相談會を開かれたる後委員七名を擧て規約内則等の編纂を托されたりと云へば其活潑なる運動を見るの日蓋し遠きにあらざるべし吾人は四月廿五日の女學雜誌第二十一號に於て有力なる婦人會と題する社説一篇を揭げて當今我國女流の勢力を集合せしむべき一大婦人會の興起せんヿを切望したり爾後婦人交際會、女子親睦會、婦人談話會など云へる名稱を以て所々に勃興せる數多の婦人會ある毎に常に密に感謝の念に溢れたりと雖も今公然女風の矯正を目的として誠意熱心の事業を執らんヿを盟約する所云る婦人矯風會なるものヽ新設あらんとするを聞ては吾人實に未曾有の喜に禁へざる也

抑も會と云ひ社と云ひ凡そ多人數個々の力を集合せしむべき者は其効能甚だ莫大なるもの也古來世上に非常の大事業を成就したる者は大抵皆一個人の力に在らずして多くは個々集合の會社にあり蓋し偉人英雄時に世に出づ其人の力よく一世を聳動するに足ると雖も然れども一木よく大厦を支へ難きが故に必ずや同志贊成の人多く之に合して力を協はすにあらずんば遂に其効を見る能はざるなり然れども女流に於て集會の効を見るは男子の間に於けるものに比して更に大なるヿ万々なり蓋し女の質單獨の運動に慣れずして集合の力を要するヿ甚だ多し西洋の學士連りに云ふ女は發明の力に乏しくして適用の才に富み發言の事に慣れずして主張の辨に達せりと故に或は社會の害悪を除去せんが爲に熱心に奔走し或は公衆の慈善を實行せんが爲に誠意に盡力し或は正士義人の功を賞揚して強く其志を主張するが如き大凡そ輿論をいよ〳〵聳動し民心をます〳〵激昂するヿに關しては特に得意なるものなり之を以て女が妻とし母として戸々に行ふべき家内の大義務を除き凡そ其の社會公衆の爲に盡力すべき事業なるものは皆その流の集合協同して共に力を一にするを必要とするものなり之を况んや我國女流の如く其力特に弱く其經驗特に淺き者に於ては到底有力なる一婦人會ありて之が力を合はすにあらずんば此流の人にして單獨よく事を行ふが如き望は甚だ尠かるべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

吾人の記臆する所に依れば東京、横濱、西京、大坂、神戸等の諸女學校を卒業して學識尋常の男子に優れる程の女子甚だ多し然れども其學校を出るや遠からずして人に嫁し子を擧げ家を理すれば則ち尋常の細君あり啻に尋常の細君に異る所なきにあらず時としては經濟調理等に不案内あるを以て更に一等を下る所の細君とし見做さるゝにあらざるはなし如此き女流が學窓に會話を暗誦し教場に讀書の力を練たる螢雪七八年の苦業は一點の効能もなく消滅し去りて轉た女學の進歩を止むるの媒となるのみ思ふに如此きは其因多く彼の婦人會なるものゝあらざるが故なり若し茲に有力ある婦人會ありて如此き女流に力を盡すべき場所を與へ尚且つ其學窓に得たる才藝を失はれせざらんには女學の勢力頓に加はりて總躰の女風之が爲に一變し女學の効能初て現じ得たるべし吾人は從來に如此ものあらざりしを切に遺憾とするが故に當今に早く如此き會合のあらんことを切望すると亦太甚だ切なりとす

今や女事の改良すべき者頗に多し娼妓先づ全廢せざる可らず女權大に張らざる可らず女子產を嗣ぐの制早く定めざる可らず離婚結婚の法律更に女流に利あらざる可らず女子教育の策尤も講ぜざる可らず婦人授產の法緻かに窮めざる可らず今の時に當りて日本婦人の爲に圖る踏舞捧囊乘馬の事必しも必要にあらず奢肆驕慢の女風同時に滅せざる可らず卑屈謙遜の風速かに去らざる可らず日本女子の教育を以て任とする者は今實に多事の中心に在る者と云ふべし故に今ま有力ある婦人會を切要とするの事亦頂點に達す將に起らんとするの婦人矯風會ある者は實に此必要に應ずるの覺悟あらざる可らざる也

私に聞く所によれば將に起らんとする婦人矯風會は彼の万國婦人禁酒會の遊說委員レビツト夫人の渡來に際し夫人と志を同ふして我國の女風を改良せんことに決心したる婦人方の計畫に係ると云へり吾人は日本女流の爲め、又同夫人の爲めに、我國に万國婦人禁酒會に均しき婦人會の設立あらんことを日夜希望したるもの也然るに万國婦人禁酒會は稱して禁酒の會と云ふと雖ども其實際に執行する事業を見れば純然たる矯風總躰の善業あり故に今ま有志の婦人等がレビツト夫人と志を通じて一の新婦人會を創設せんとするに當り名けて婦人矯風會と云ひ禁酒の盟約を嚴にすると共に我國總躰の風を矯めんことを希圖さるゝ者は特に我國當今の必要に應ずると共に能く万國婦人禁酒會の精神を明かにするものと云ふべし然れども日本男子が所云る熱心を犧牲にして結成したる政黨は今その跡を見

る能はざる程に消散したり大凡そ集會結合の事は始に活潑に終に緩慢なるを常弊とす故に將に起らんとする婦人矯風會の同志婦人は宜しく先づ之を鑑みて着々步を進め堅固の基礎を岩上に置くの決心を養ふべきなり

●叢話

○米國婦人の事業

全世界の婦人相ひ協力して飲酒の罪を全滅し釀酒の業を全廢して天下に酒氣醉人なからしめんことを願望する者あり此會を總稱して世界婦人基督敎徒禁酒會と云ふ凡そ飲酒の弊を論じて禁酒の美德を唱へたるは今を距る一百餘年の昔し米國に於て既に其事ありたりと雖も斯る同志の婦人等相連合して一會を組織するに至れるは實に近年の事なり蓋し西曆一千八百七十四年(我明治七年)米國クリーブランド州に於て結構したるを婦人禁酒會の濫觴とするなり然るに僅々十三年の經歷は非常に此會の勢力を強くし今や米國中に五千の支會二十万の會員あるに至りたり彼の世界婦人基督敎徒禁酒會なるものは實に米國婦人禁酒會の發起によりて成れるものと云ふべし現に前月我國に遊說したるレビット夫人の如きは全世界に此會の同志者を募集せんが爲めに一昨年十一月米國禁酒會員の推撰によりて遂に世界週說の途に登らるゝことなりたるなり而して此會名くるに禁酒會を以てし會の目的に酒毒を全滅することを揭ぐると雖も其の實際に行ふ所を見れば大凡そ社會の道德を進めて罪惡を除去することに關しては皆な力を盡さゞるなし故に社會の善事に盡力する高等の婦人は皆な此會に入りて其力を公衆の利益に捧ぐることなり

此故に吾人は今ま左に米國婦人禁酒會の會頭フランセスウィルラルド孃が昨年十月の年會に於て演說ありたる者の大意を揭げ米國婦人が社會の事に盡力する熱心の模樣を示して一には我國當今の女流を警醒し二には將に起らんとする婦人矯風會の姉妹に要むる所あらんとす

去年世界週說の爲に發足ありたるレビット夫人の入費を助けんが爲に義捐を乞ひたる後ち所々より熱心なる同意と寄附との甚多ありたることは茲に深く感謝す抑も万國に散在せる所々の婦人禁酒會は譬へば瑱珠を遠近に散らしたるが如し若し之を一つに貫くべき糸ありて連々たる一大環をつくりて全世界を圍まば何如に樂しくかあらん蓋し万國の婦人禁酒會を連合して共に同に要望する同一の事あらば最も

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

宜しきとありレビット夫人ハ特に此に感あり其發議と所々の贊成とを得て万國の婦人禁酒會員は正午十二時に同一の希望を神に祈禱し且つ向後左の如き願書を共同して其國々の政府君上に捧ぐべきとに決したり

世界婦人基督敎徒禁酒會より世界各國の政府に呈せる請願書

謹て書を尊敬する執政者、議員、及諸兄に呈す妾等は躰質荏弱ある者ありと雖も妾等の家族を愛し妾等の鄕國を愛し世界の國民を愛するに至りてハ心情の剛强ある者あり妾等知る凡そ人にして其脳髓明淸ある時は必ず其心は親切に其家は幸福に其國は富榮にして世界の事亦平和に開進すべし然れども脳髓を狂亂昏迷せしむる所のアルクホール品及び阿片は人類の爲め全世界の爲に不幸を來らするのみならず殊に甚しく妾等と妾等の小兒に禍するものとす而るに法律ハ斯る物品の販賣を保護して各國政府ハ之に依て歲入の一部分を得又た之を知らず之を好まざる人民に對して條約上の權に依て之を强賣するを以て政府自ら此商賣に與かるものに等しきを知るなり妾等は全世界を呻吟轉倒せしむる此大害惡を禁止するの力ありと雖も足下ハ此純然たる大害惡の爲に汚さるゝ天下各國の國旗を潔くするの力あり故に妾等は日輪光照する文明各國の婦人を代表する人々と共に異口同音を以て足下が飲酒阿片の販賣上より法律上の保護認可を取去り足下の版圖内に於て此文明の荼毒たる兩害惡を全禁し以て妾等の家族を保護せられんとを歎願するものあり

此願書ハ婦人のみ調印すべし又其地の婦人中より代人を撰み之に調印せしむるとも差支なしと雖も成べくハ其地の婦人悉く記名調印するをよしとすレビット夫人ハ此願書を印度、支那、日本、佛蘭西、伊太利、日耳曼、西班牙、魯士亞、スカンヂナビア其外大凡そ同夫人が到着せる國々の國語に譯して印刷し之を同志の人々の記名調印を乞ひ且つかゝる調印したる全世界の婦人の性名を之に附錄し併て其國の政府に捧呈するものとす此故に合衆國の政府は其國境中より酒煙の商賣を除去すべきやう米人に請願さるゝのみならず併てアウストラリア、日本、支那等の婦人よりも同時に同樣の請願を送らるゝものとあるべし英國佛國其外何地の政府にても皆同樣の請願を其國人と外國人とより受取るものとあるあり而して此の請願書を全世界の政府に捧呈し了するは凡

そ今より五ヶ年の間になるへし子弟教育の事に關しては當年中に非常の好結果ありたり現に當國の九州中に於ては小學校に禁酒讀本を課業用にせしむることに決したり特にペンシルバニア州に於ては尤も嚴く之を命せり皆なこれ吾婦人禁酒會の事業なりとす

高等教育、安息日學校、幼稚園等に關する事業はます〳〵進歩せり又た禁煙の事に關してはニウゼルセー、ニウハムプシア、ネブラスカの三州に小供が喫煙するを防ぐやうの法律を發布せしむるに至りたり

ニウハムプシア州にては部長ルシーホルムス孃の先導により不道德の文書を禁止すべき法律を發布したり

部長プーエル夫人の盡力によりて傳道會社、教育會、其他の諸會と本會と通信するの事業ます〳〵擧りたり。安息日を嚴守せしむるの事業も亦た部長バテハム夫人の盡力により非常に進歩したり

音樂の事業亦大に擧れり會員エリサベストムプソン夫人常に曰く勇壯の樂を奏して國民武に勇むの氣象あらハ神聖なる音樂によりて平和の念を起さすると決して難きにあらず詩人ロウエルが音樂を以て最良なる慈善中の最も慈善なるものとしたるハ之が爲めなりと斯くて夫人は紐育の最も淫惡なる場所に於て其清潔なる音樂を奏し惡人を化し惱むる者を慰め玉ふ其盡力によりて此事業大に擧れり

吾會の機關たるユニオンシグナル新聞は非常の勢力を得たり編輯長は歐洲に行て一ヶ年間景勢を視察すれども殘社員よく其跡を擔當して編輯に衰ふる所あるなし且つ此新聞局に於て發行する小本も亦た大に好結果を得たりヘレン夫人が編輯したる禁酒でよみ（日々の暦に禁酒上の名言を記し毎日揭げ見て志を養ふの仕組なり）も亦た大なる感化を施したり（未完）

○風俗改良の談

むかし東の國に時めきたる王ありけり或日近侍數多引具して野面をそゞろありきし玉へるとき一人の羊飼草の上に眠りてはしたなく王の御目に留まりぬ王はつら〳〵羊飼の躰を見玉ふて近侍に云ハせ玉ふは汝の風甚だ異樣にして余には疑ふへきこと多し衣食住居は何如なりやと細かな問ハせらる羊飼の答に奴平生かゝる薄き物まとひて雨風に打たれ草の上に眠り候とも少か身に恙なく候と申す王の心には此上なう不思議に思いれたれバ然らバ宮殿に連れ歸りて暫く養ひ遣はせ少か試る

由ありと仰さる畏まり奉りて伴ひ歸り金衣玉飾を着けさせ佳饌美食を供へて王侯貴人同樣の取扱なしたり斯て數ヶ月を經たる後王は大理石を敷つめたる大廣間に水數石をまき散らさして彼の羊飼を此處に召し出し凡そ半時間ほど親しく談話し玉ひたり然るに羊飼は退て出るや否や沓の裏水にしめりて足をつよく冷やしたる者らか激性の寒冒を感じて即刻死去したりと云ふ」凡そ風俗を改良して從前の習慣を止むる者は皆な此の古談を心得をくこと大切なり

○酒は躰を溫むる乎

酒は眞に百毒の長です然し之を節して飲みますれバ反つて百藥の王となりまそ一時に數斛を傾けてこそ沈湎いたせ晩食に數盃の酒を飲み干して躰を溫めたる時は愉快此に超すものなく攝生至極の方となります。トハ酒飲が飲酒の利を主張する最末の辨護なり然し躰の爲に酒を飲むとならば初より藥用の心得にて量をはかり食前食後に一二杯を飲むが宜しひ既に之を甘しとして飲用すれバ最早酒害を躰にのこす初めにて此より先に酒の利を受べき望は毛頭なるまじ特に酒は躰を溫むるゆえに漢門の上戸が酒の爲に寒を凌ぎたる如くなくては寒中活潑の仕事を爲すとも得なり難しなど云ふ辨論は愚中の尤も患なる言譯です。或る時斯る事を悔り顏に主張したる夫ありけり細君薪を取來りてストーブに投じ火を點じて燃し乍ら吾夫如何よ溫かになりませしや、チー眞に溫い何でも斯なくてハ仕事も出來んよ、左樣で御座いませう然し貴方此んな冷度薪でも火をつけまそれバ斯う溫かにはなりますれど然れバとて身を燃やし盡されて灰となりまするハ憫れなとてハありませんか、何を言ふのか、サレバ貴方如何に躰をお溫めなさると云つて酒の爲に胃の臟や頭惱などの樣な器械を段々と御損ひなすつてハ効ないとてハ御座いますまいか酒が躰を溫めまするハ此樣の器械と一處に躰の內で燃えまするからのことと承りました折たく柴の憫を思ふよつけて貴方の御躰がいたう心ろ掛りで御座りまする。酒を以て身躰を溫むると云ふものハ皆な此の婦人の金言をきくべきなり

○いへのとも

近來いへのとも問答の部に對して寄書甚多く候へども或ハ一身上の秘事に關する問あり或ハ人に示し難き樣の答あり此類ハ共に紙面に掲げて公に見すべきならねバ斯る御問ハ成べく編者一己の考のみを御答申して少か其志を慰め參らせ又斯る御答ハたゞ編者一己の參考までに頂戴すること仕

度候依て一身上の御問合にて他人に示し左程の益もあからんと思ひ玉ふ樣の質問を寄せらるゝ方は委細に其宿所を明記し且つ郵券を封じ越し玉へ編者の愚考のみを答へ申べし

答の部

○廿二の答　人に物品を贈る時目錄と云ふもの添ふる古來の禮式あり目錄には人に贈るべき物品の名記して終りに以上の二字を書す此れ以上の何々を進上致すと云ふ譯なり今畧して贈るべき物品を紙に包み其上に物品の名を記して下にいゝ又は〆と書す皆あ以上の畧字なり(盤城棚倉、蘆野明日香)

○廿三の答　世の女流皆其志なきに困しむ折角志ある人は疾病ありて健康ならぬとか或は饑寒に困められて欲する所を得果せぬとか何とかカトカ種〱の故障ありて兎角思ふ儘にゆかぬが此世の習なりさてこそ古より「儘あらぬこそ浮世なれ」とて皆人のかこちあらずや明治の今日にも猶カタクナある父母ありて其女兒か早十四五にも成れバ學の庭を退かしめて其脩業を許さぬ者多かり吾人常よ斯る父母を見もし聞もしていたく嘆息し居るあり御身が父御いさる人あらず高尚完美ある學校には得通はせ玉はぬにもせよ猶人に就て學ばせ玉ふとぞ聞くなる而して又其力及ばずとあらはいかにせん必す學校あらざれバ學びの進まぬといふ理あし朧を得て獨はしやとれ人の常情あれバ御身の殘念と云はるゝも道理あれど世にハ朧をだに得られぬ女流の多かるを思ひて姑らく忍び玉へかし(盤城棚倉、蘆野明日香)

○廿四の答　妾か思ふ所彼人に在り連理の枝ともありて見まほしとて父母或は親戚知己あどよ斯くと云はんは間がわるしと云ひ玉いゝ御身が面わたり其人に相談し玉ふの外あし斯くてい猶間のわるき事あらん世に友達は第二の我なりと予云ふある善き友に謀り玉いゞ事成り玉ふべしと思はる(盤城棚倉、蘆野明日香)

○廿五の答　婚姻の目的左の如し(同前)

甲　眞の愛情あるもの相集りて夫婦とあり完全の生活を遂げ天受の福祉を全ふす

乙　子女を養成して社會の開明を維持し且進歩せしめ祖宗を辱しめざるにあり

問の部

○廿六　妾事此頃幸にして一子を擧げ候へ共子供教育の道を存じ申さず夫い常に他出勝ゆゑ一〻承はる譯にも參らず候何卒母たるもの丶心得べき條々をくれ〱しく御示し被下樣伺ほ御

經驗の程をも御洩しの樣四方の方々に祈入候（備中高梁間の町、三井榮子）

○廿七　妾が嫁ぎ候家には母と祖母と兩人の姑有之候皆な良人にハまゝしき中にて祖母はさのみならねど母上ハ毎に良人を忌み遊さる樣に候然るに母と祖母とハ常に中わしく居ませば祖母の御言に從へば母上の御氣に入らざる樣に候あハれ妾の爲すべき心得を御示ありたく候（一女子）

○廿八　親友山部よし女ハ英才の人に候が前年其親に迫られて止みなく或人に嫁ぎたり然るに親なる人ハ不幸にして早く逝き玉ひたるに當今妹背の間始終樂しからず夫ハ聟養子なれば之を離緣したらばなど云ふ人もあり斯る時ハ何如にすべきものにや妾代りて御問申上候（長崎女學校の梢雨女史）

○廿九　衣服に紋をつくる事、船の名を何丸と申す事。右二件何卒御答を乞ふ（日本橋、澤田しづ）

○會話のこゝろえ　（第二）

此故に吾人ハ今より會話の心得のならましを說き人々をして一種の寶を得るの途に至らせんとす因て先づ大家の所說を集め示して後に吾人が考ふるまゝを附錄すべし

ビーコンスフヒールド侯曰く喃々として語りつゝくる多辨の人の物語りハ時々沈默する人の輕やかに述るの更に樂しきに如かず

チブロース氏の談話法に曰く談話の助けとする者に種々あり先づ尤も大切なるを記臆とす月日人名地名等をよく覺えて物語るときハ談味一層に面白し、次に有名なる人々の逸事あり談話中相應の時に臨みて甘く之を用ひ一種の例解として快く述べ去るべし、次に古語諺語の類あり此ハ數多の人數多の時代の經驗を結晶せしめたる如きものなれば其意味の有力なると一句にしてよく人心を動かすに足る如きものあり故に亦よく之を用ゆべし

ウイリアムテムプル曰く談話にハ頓智よりも滑稽を良しとし智識よりも自由なるを宜しとす蓋し多くの人ハ談話によりて學び若くハ考ふる所あらんとするにあらず大抵皆な之に依りて樂しまんと欲し樂ざるとも自由ならんことを欲するものなり

三角論と云へる者の著者云く婦人をして談上手とならしむる者は靈心上及び道德上の念、善き趣味、合點の善き事等なり

ポーエス曰く凡て談話には喜ばし氣の風あるを要す此風あ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るとあきとに由りて人の感覺の違ふと實に太甚しきものあり之に面白き一の例あり昔し動物園の掛人つぶやきて曰く吾が預れる獸は何故にや余に慣るゝとあく全く余に無頓着の姿あり之れ何の譯ぞと人あり敎て曰くとは君が動物に談話し玉はざるゆゑ也と然れども此の掛人は動物に談話すると云へる味を悟ざりしかば遂に之と慣るゝ能はず久しからずして其職を奪はれたり蓋し動物すら倘ほ談話して喜ばし氣の風を呈するを好む況んや人をや

ピサゴラス曰く人宜しく默すべし若し談話するあらば默するに優りたるとを語るべし。ゼチヂハーバート曰く適當に談話すべし然るにあらずんば須らく默すべし。セントフランセスデーセール曰く甘く眞理を語るにあらずんば默するに如かず蓋し立派の皿に惡き汁を盛るは盛らざるに如かざる也。ラコルデーア曰く談話に次ぎて世界中に尤も有力あるは沈默あり。僧正ペヽリッチ曰く余は神の惠に隨ひ決定せり過度に談話するに至らんとを恐るゝが故に多く談話するとを愼み目的あきとを徒らに物語らんよりは寧ろ全く談話せざるとゝせり」以上は皆な暴りよ談話すまじきとを敎へたるあり

●論說

○黴毒撿査の論　フランセス、ウイルラルド

左の一篇は過月米國婦人禁酒會の會頭ウイルラルド孃がシカゴ府に於ける中央婦人禁酒會に於て演說ありたる者の筆記を抄譯したる者あり

一千八百六十七年妾が佛國の都パリーに滯留せるとき立派の車に黑衣を覆ひて街衢を走らする者あるを見たり之を傍人にきくに曰く彼すあはち撿査を受くべき所の半魔なりと妾は此時初てパリーの墜落せる婦人は官許を得て其賤業を營むとを知り又初て如此き婦人が若干時間其家に壓込られ何々の街道を通行するとを禁ぜられ一週に一度巡査の警護を得て撿査所に趣き其身に黴毒あきとの保證を得て歸るべき者たるを知れり爾后妾ハ如此き車を見る每に古來尤も心を痛ましめ又尤も淚をそゝがせたる送葬の列を見るが如き感ありたりあゝ今や妾は諸君の前に立て昔し言ふまじき者と定りたる如此き事を演說するの勇を保ち又曩に聽くまじき者と覺えたる如此き演說を諸君が自由に聽聞し玉ふに至れる此の輿論の一大變化ハ果して何によりて來れるか妾もし之を問ふの人あらば直ちに答へて云ハん曰くこれ執政者がパリーの黑車を英吉利及び亞

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

米利加に輸入せんとしアングロサクソンの婦人が蹶然立て之に反對せるが故にありと

執政者ハ双方罪を侵したるが爲に來るべき天然の罰に對し啻に男子を保護して獨り女子を苦しめ强き者を助けて弱き者に不名譽と汚辱とを負はせんとす婦人が婦人に對する氣慨の義氣之が爲に勃興せり數百年間沈默謙退したるものも今や敢て進まざる可らず現今基督敎國中に妾等婦女子が辨論の聲の鳴り渡るに至れるはたゞ之が爲めあり

此故に英語を談ずる婦人中最も適當にして且つ尤も善良ある婦人數千人は今ま嚴格に相盟約して決定したり曰く妾等は黴毒檢査條例をして英米の領地内に一寸だも足踏させざるとを盟ふのみにあらず凡ろ惡德の妓樓は悉皆之を禁滅し悉皆之を追放せんとを約するものあり娼妓官許の事決して妾等の土地に來る可らず娼妓放任の政策亦决して容す可らず必ずや禁滅の方法を講じて之を實行せざる可らざる也妾等の嚴約と云ふものは即ち之れ也

然れば神は先づ預言者を與へ次に使徒を與へ次に敎師を與へ次に傳道師を與へ玉へり、トハ彼の猶太人と希臘人、束縛されたる者と自由の人及び男子と女子とをキリストに於て皆一樣あらしむる所の福音が世に行はるゝの順序あり此故に今ま一段の新開化を造るべき預言者を見んと欲せば先づ英吉利ウインチェスターの舊都に趣きて夫あり子ある一人の婦人を見ざる可らず此婦人は一愛娘を失ひて愁歎止みあきの後一朝感發して現に更に悲しむべく更に多く失ひたる可憐の老母等が爲に其失ひ去りたる娘等を救助せんと欲し其信仰、其筆、其聲を悉く之が爲に犧牲にせんとを決心したるものなり此婦人を誰とか爲す曰くジョセフヒンパットレル夫人是れ也歴史に據て之を見るに社會の害惡を淸掃するが爲に公衆に現れ出でたる最初の勇將は即ちウインチェスター寺院の僧官パットレル氏の夫人あり夫人は廿年間英國と大陸諸國とに於けるかの嫌惡すべき黴毒檢査條例に反對し遂に過る六年間は此條例の實施あきを見、去る數週間前には下院に於て總員贊同の上之を全廢するとに決したるを見るに至り玉へり

諸君パットレル夫人が前年の預言を今思ひ當り玉ふべし曰く

吾等思ふに此條例を廢滅するは吾等が未來の事業の鍵鑰あり蓋し吾等がつよく之に反對するは彼事業を成功するが爲に必要ある敎練あり抑も神は全能にして万事成ざるあし又何物と雖も淸潔ある者の彌〻進行するに對し大國民の煥

發したる眞心に對し決して抵抗すると能はじ故に吾等は歩々として此不清潔なる法律を全廢し得るの大勝利に近づく者なり蓋し此大勝利は基督が代つて死し玉へる人類の一部分を陥れんが爲に法を備へ許を立てたる害惡を全廢する所のものなり

今や世界の權衡平を失へり是れ人々の皆な承知する所ならん苟くも女子が適當の地位に達するに非ずんば權衡決して平に復せじ是れ學術、歷史、及び新約全書を承知するもの丶亦皆な同意する所ならん大凡ろ婦人が主張し保持する所の地は即ち男子が遂に之に來るの地なり故に實際に社會の改良を行はんと欲するの婦人は一身よく生計するに足り一己よく獨立するに足り而も愛と婚姻と家族と云へる昔ながらの神聖なる三道に入りて何時を問はず少年に向ひて斯く云ひ得るの地に達せざる可らず曰く君煙草と妾との何れをか擇ばざる可らず君强飲と妾との何れをか擇ばざる可らず或は骨牌と妾か不道德か妾か其何れをか擇ばざる可らずト斯の如くして少年の肉慾初めて去るべし此に至らずんバ決して能はざる也斯の如くして社會を清潔にするの根元大勝すべし此に至らずんば決して能はざる也（未完）

●佳傳

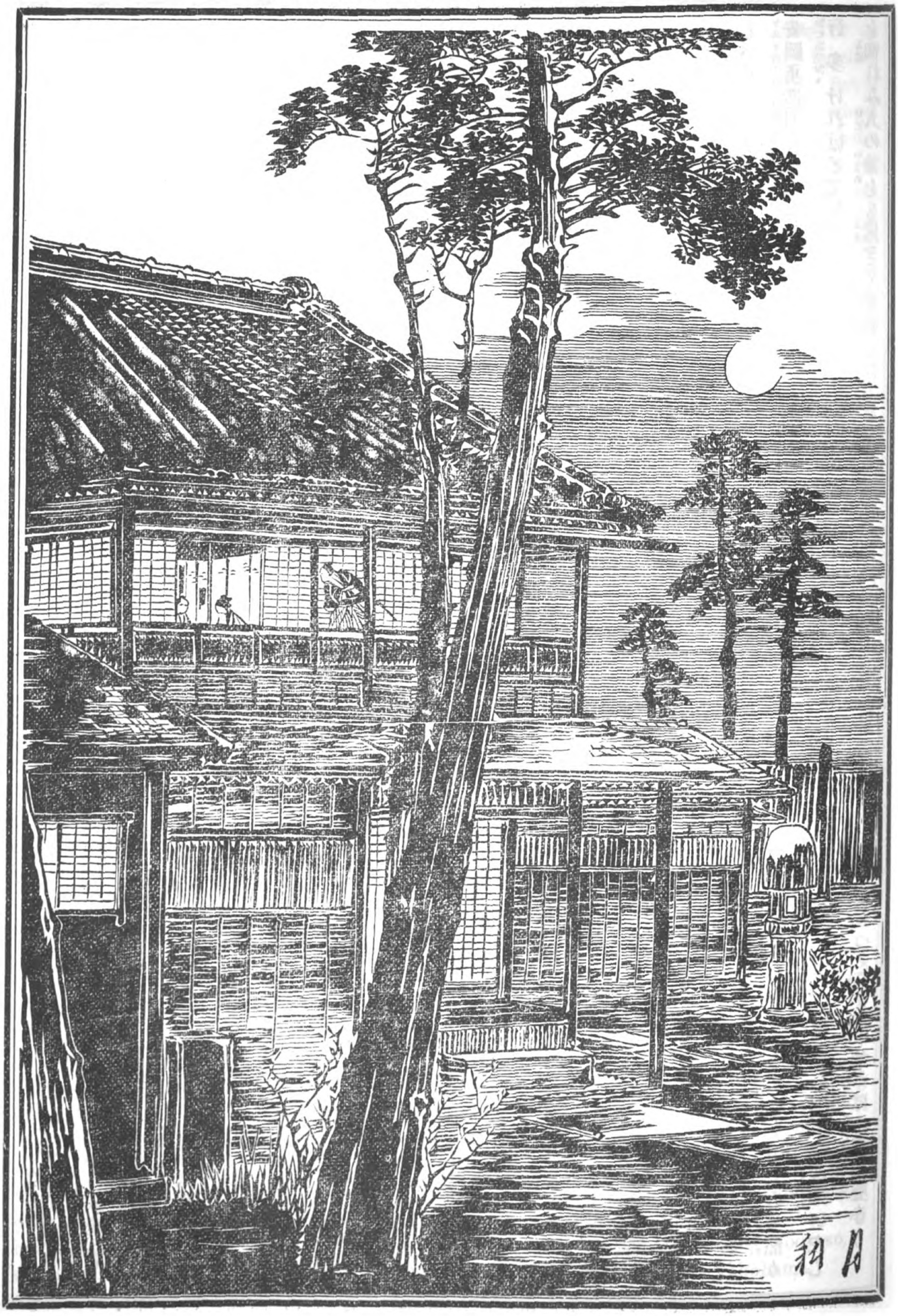
○パンテア夫を勵ませし事

昔し波斯王サイラスの頃アブラダトスの妻にパンテアと云へるあり夫婦の間淺からずして伉儷尤もあつかりしがサイラス王のパンテアを擒ふるや問て曰く汝の家は何處に在りやパンテア答て曰く我家は他なし良人のふところ即ち是のみと王種々甘言を以て其堅貞の志操を奪はんと欲し王宮の榮花寵恩の盛んなるを示して曰く此榮花快樂を得るの望あるも尙ほ之を棄て丶家に歸らんとを欲する乎曰く然り片時も早く還らんとを希望して止まずと王深く其志に感激し遂に之をして夫の許に歸らしめたりパンテアハ王の惠を德として必ず舊恩に報ゆべき事のあれかしと密かに時機を窺ひ居たり後ち幾千もなく干戈を動かすと起れるに際しパンテアは良人にすゝめ從軍して王の身を護らしめたり征馬門にいなゝき出陣の時既に至るパンテアは手づから製作せる武具の裝束並びに兜を携へて出で來り鐵の鎖をもてこしらへたる臂鎧を自ら良人に着せしめ從容として之に云て曰く若し世の中に己が魂を愛するよりも一層深く其夫を愛したる婦人あらバ妾こそ則ち其人なるべけれ妾の君を思ふと斯の如く切なり然れ共妾は君が大丈夫

の躰面をけがしたるを見ながら生きて共に辱めを受んよりは君があつぱれ男子の功蹟あるに於てはたとへ諸共に地下に葬らるゝも無乃之をいさぎよしと思ふなり君と妾とはもとより斯の如く高尚なることを為すに堪へたりと信ずるぞやと斯く言ひ終りて從軍の首行を祝し切に別を惜みて良人の馬の背を見送り密かに後に隨ひて行くこと未だ幾許ならずアブラダトス反顧りて曰くパンテアよ心づよかれいざさらば情別は盡きじ疾く立かへれよと言ひ棄てゝ鞭をあげ馬を早めて馳せ去りけるがアブラダトス遂に戰場に最後を遂げ武勇の擧を現はせり妻は其由を傳へ聞きて自ら刃に伏して死したりとぞ

○松崎佳人傳　（第四回）

家里新太郎帷を松坂に下してより高名日に四方に走り來り學ぶ者も頗かに數を增したり或日舊友大原仁兵衛江戸より下り訪ひて先づ都下の景勢を談じ次に小勝が苦辛の末貯蓄したる金一百餘兩を出し身女流に生れて國家の大事に力を盡ぞあたはず不肖にして亡父の志をもつぐ能はざれば切て万一の御用の御足しともなし玉へと云へる言葉を傳へて小勝が貞節を物語りけり斯て後大原は膝押し進ませて密かに云へるやう今ま天下の景勢すでに此如くありて志士の聯合危きこと一髮をつなぐが如し而も幕府の內情毫も聽へずして外事を擧ぐべきの必要いよ／＼迫まれり今の策は豪才勇敢の士一人を幕に入らせて內外相通じ且つ事を擧るの企を容易にし民間志士の危難を減ずるにあり因て思ふに此任に當るもの子を除いて他に人あるを見ず大鵬翼を縮るは九天を擊たんが爲めなり子曲げて此策に從ひ玉へ藤田東湖の如き特に之を主張して子に深く委賴するものありと云ふ新太郎亦た此を不可とするにあらずと雖も正義の念其心を制して容易く承引すること能はず善き程に應らへて其座は終りぬ。其後不意の事出來て新太郎は急かに西京に移ることゝなり玆には月性西鄉など云へる名士と交りて彌よ志を伸るの機を窺ひたるに或日酒樓に登りてまたもやゆくりなく小勝に邂逅せり事の由を尋ぬるに新太郎江戸を去りてより明暮に其便を望み老母も共に思ひやりて終始心遣ひしたるが老躰久しく疲れて遂に果敢なくなれり其が上に小勝は幕に逆ふ志士どもに緣みありなど風聞して拘引されたるともなり新太郎の行さき問ひたゞさるゝことなど屢々ありしかば遂に都を去るに決して此の西京へはさすらひ來りしなり新太郎は小勝が辛苦の末一百餘金を送れることなど思ひ合して愛憐の情更に深く談話彌よ濃かなりし時誰とは知らず障子を隔てゝ窺



ひ寄る者あり何奴なれば無禮すると此方より障子スラリと打あくれば服面したる大の男惶卒として飛び去りたり曲者逃がすなと呼はりつゝ追すがりて引捕へ帽奪ひ取りて面を見れば奇しむべし塾中の書生村田市の進と云へるものなり此は奇怪なる哉市の進汝ち是迄衣食を給し恩を與へ人の止るをも聽かで世話なしたる新太郎にむかひ何事をか爲さんとする、サ、用ぞあらん明白に申せと云ふ村田は眼を見張りて罵るやう明白ならざるは汝の事なり吾今日まで汝を信じ此上なき者と思ひたるに女に迷ひ權に媚び卑屈曖昧の所行を爲す證跡今日に於て現然たれど尚ほ其實際を明らめんとて玆に來れば彌よ以て卑劣千万筒井氏の遺娘を煽かして憂き川竹に沈め其金を受て身の利を謀るかくても尚ほ志士の名を稱するや、何んと申す雜言無禮容謝致さぬ其證據とは何物ぞ速に之に出せ、新太郎樣が妾をそゝのかせしなどとは餘りの御言村田樣ちと御目鏡違で御座りませう、ナニ其證據とは之であるわ盗賊たけ〴〵しいとは家里のことだ、サ、之を見よと思がけなき隣座敷より安岡勇造刀をつとり暴れ出てたり、抑も此兩人は平素輕卒の行多ければとて同志の中にも嫌はれたるを新太郎は獨り之を憫れみ人の諫をも塞ぎて愛養したるに今に至りて此亂暴果して小人は養ひ難かり新太郎は最早二言に及ばず腰刀をつとりて立ち迎へり村田安岡はたゞ正直一邊の武士なり家里志を變じて幕府に歸せりと思へば昔日の恩人は一層の讎敵となりて遺恨の刀尖丁々たり然れど新太郎英邁の手練は暫時の間に敵の刀を亂らせ兩人次第に弱はりて危うく見へたる折り手裏劍一躍して安岡が右の股を貫き又もや飄と鳴りて村田が右の腕を縫ひたれば遺憾々々と叫び乍ら一轉身を反して早くも逃げ去りたり。粗暴輕卒の小人とは云へ事餘りの不意に出でゝ由縁を知らず此はそも何如なる譯なるぞと思案に突立たる新太郎を見乍ら大原仁兵衛優々として入り來れり、家里左な怪しみ玉ふな此は皆な僕が爲す所ぞ、ナニ汝の所爲となシテ何如なれば斯る非常の戯をかするぞ、サアも新太郎まだ若年よ曩に說きたる苦肉の計は今先づ玆に端を啓くべし此に東湖の手書もあり一覽して心を決せよ今ま賴三樹世古格太郎等は幕府に拘はれ命旦夕に危し之を助るも子の力にあり紀州を抱込み幕府に通じ內外一致の基を開くは家里足下の任にあらずや、新太郎つく〴〵と思案したるが突然膝を撫しあゝ然り〳〵燕雀の無禮何んぞ大鵬の志を損ぜん確かに承知いたした、新太郎即座の變心にあつと泣き出せるは小勝の聲なり

寄書

PROGRESS OF WOMAN.

CASTING a glance backward over the annals of the world's history, we cannot help being struck with the unspeakable improvement which every nation, society and individual have manifested with regard to their views of women; for it is a fact well known that even among the nations which were considered as the enlightened ones in antiquity, and also among those that stand preeminently in these present days as the most civilized countries of the world, women having lost their original dignity and proper rank were degraded in a more or less degree. For instance, history records that in the refined ages of Greece and Rome, when they reached highest intellectual culture and literary elevation, woman was still left in her degraded condition. But what a glorious epoch has arrived now! This is an age when science, art and literature are iuvestigated in their full scope, and not only that, but women that had hitherto been deprived of these privileges can have a share in these useful as well as delightful researches. Still, at the same time, it is well to remember that it was not without many difficulties and struggles that woman attained her present position, for even in that nation which is known throughout the world as the land of liberty, when a women first wished to become a physician or a lawyer, there was much fighting on that subject, not of the sword, but of the pen. But as the views concerning woman have been changed by the public mind, she has decidedly a wider sphere of usefulness; it is no longer restricted to a narrow compass, and it is her privilege as well as duty to make the best use of time and talent which the infinitely Perfect Mind has bestowed upon her. Are there not many examples of women who have distinguished themselves in letters or in society or on battle fields? There are many great heroines whose names illumine their record. But it is well to add here that millions whose names were never known beyond the circles of their own home influence have been as worthy of commendation as those that are more widely known andad mired. When the Roman soldiers were out in the plain fighting and arguing with the Volscians, did not their mothers, wives, and sisters stay at home and offer up their hands and hearts in prayer? This is woman's work. Not in the battle field alone is valor manifested. Within walls of a chamber even, there can burn the warmest heart, there can ascend the fervent prayer, there can be nursed the valiant spirit. Indeed, as mothers, as wives, as sisters, women have the greatest influence on the destiny of men. It is said that the late President Garfield on the auspicious occasion of his inauguration as the chief Magistrate of a nation of fifty millions of freemen, turned first to his mother and then to his wife and saluted them with a kiss of affectionate gratitude. It was because, next to the influence they had exerted upon his intellectual and social life, was the memory of fellow female teachers in the same institution over which he once presided to whose mental stimulus he confessed himself more indebted than to any other source. And it is a matter of history that Napoleon's star of glory set from the time of his alienation from Josephine the injured. Such being the influence that woman exercises, it is a matter of great importance that all women should be brought conscientiously to reflect upon their responsibility, and to exert only a good influence. And as the signs of the time are tending more favorably towards the better condition of women, let us not boast of this privilege, but with modesty and meckness which are characteristics of the sex endeavor to direct all our efforts toward the ever-increasing ennoblement of the human race.

STUDENT IN KYORITSU JOGAKKO,
212 Bluff, Yokohama.

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

前頁の英文ハ女子の進歩と題し横濱山手二百十二番共立女學校の某孃より寄送ありたる者なり

○舊作二首　湘煙女史　中島　俊

瓊浦春徳寺夜雨

細雨人無夢。深燈佛欲盲。滿階虫語外。寂歴不聞喧。

瓊浦客窓

秋風昨夜透窓紗。夢裏故園天一涯。殘涙痕濺小詩冊。新憔悴照薔薇華。嫣嫣不遣初三月。淡泊唯題晩歳花。破傘敝衣君莫笑。滿腸山岳獨堪誇。

○淸の舒鐵雲の詩　備中國淺口郡長尾さくら

左の一篇は淸の舒鐵雲の作りたる詩なるが支那人にハ不似合ある女權擴張主義を陳へたるが珍らしく覺ゆれば雜誌の餘白を借りて大方の姉妹に示さんとす

武王曰人十。孔子曰人九。漏天煉媧補。陰符元女守。舜妹始作畫。儀狄始作酒。天子試匹夫。必用英皇偶。周代崇廟祀。姜源實居首。佛家觀世音。仙家西王母。古今數大事。不出婦人手。所以稱陰陽。陰陽則不受。亦無言牡牝。而但言牝牡。某月擊某日。月先而日後。地天即交泰、天地乃否否。以數對較之。奇本不勝偶。以身近取之。左亦不敵右。揖讓變征誅。實皆由彼婦。妹喜與妲巳。不幸逢其醜。大姒與邑姜。幸則享其厚。

●寄書。前號の外、神奈川船越氏の（燕襟より漏る丶夜光）、掛川中川氏の（男女交際の利害）三河國磯谷氏の（女子授產策）越後國塚野氏の（同上）桐生學校生徒の質議、澤田しづ、むめ女、風山女、三井桑女、河井氏等の問答、其外化し書の書解等正ろ落手。何れも後の餘白に揭ぐべし

●新報

○婦人矯風會　前號の新報欄内に婦人禁酒會設立の計畫ある由を報じたるが去る九日は右發起人大儀見よね子三浦りう子の二氏を初として其外四十一名の婦人ハ午後二時の頃寅門外の會堂に集會ありたり矯風會の大儀見元一郎君と巖本とは之に參會したれば衆員のすゝめに依り大儀見君は假りに議長の席に就き巖本も亦た書記の座に登れり斯て彼此自由に協議ありたる末禁酒は當今の諸害惡中の一分を占る者にして此他に尙ほ禁滅すべき者盡力すべき所尠らねば寧ろ矯風會と稱ふべき者を設立したる上其會則の一條として禁酒の主義を嚴約すべしとの議多數に居りて遂に婦人矯風會設立の事に可決し發起人廿二名を定めたり其性名左の如し（順序不定）

矢島かぢ、海老名みや、湯淺はつ、佐々木とよ、大儀見よね、三浦りう、靑木まさ、島田まさ、本田じゆん、森島いそ、潮田ちせ、眞木きつ、江藤まさ、鈴木やす、切代みね、淸水りか、茨木たへ、竹內たけ、加藤ひさ、丸山なほ、草野ひさ、中山てる、

由て發起人中より委員七名を擧て會則規約の編製を托したり委員七名の性名左の如し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

矢島かぢ、海老名みや、湯淺はつ、佐々木とよ、青木まさ、三浦りう、本田じゆん

右委員は會則規約の案文出來次第發起人及び賛成人を招待して彌よ婦人矯風會設立の運に至るよしあり當日はヤングメン夫人も來會ありツルー夫人は止み難き事情ありて參會なく鬼頭ます子も亦同樣にて出席なかりきは二の遺憾なりき

○女子保護令　此頃米國マッサチウセッツ州にて新に定めたる女子保護令には從來女の和姦年齡十才とありしを十三才に改め其外十八才以下の女子をして婬猥の業を爲させん爲に誘引する者を嚴罰するの律を制し又愚鈍なる女子は何才たるを問はず之を惡所に誘引することを禁したり此の改良は主として該州内の婦人禁酒會員が專ら主張盡力せしに依ると此頃のフヒランソロヒストに見ゆ

○ボストン德育會の會員には婦人多し會頭はケーテウエルス夫人にして副會頭の中にはウールソン夫人デビス孃ケンナルド夫人等あり又書記にニコラス夫人あり通信書記にコッドマン夫人會計にポッグル夫人會計撿査員にラッフヒン夫人あり尤も副會頭中にはメルリット博士サッフホルド博士等あれども此會は主も夫人の盡力にて德育の事に盡力するものと云へり

○黴毒撿查條例　英國にはかのバットレル夫人率先して此條例の廢止を主張し二十年一日の如くありしかば當年初に至りて下院上院ともに之が全廢に同意し女皇も直ちに之を承認し玉ひたるは道德上女學上尤も慶賀すべきことなり米國にては勿論一斑に之を祝したれども就中ニウヨーク州の黴毒撿查條例廢止委員は去月之が爲に集會しホッパーキッポン夫人議長と爲りて遂に左の一條を決議したり

吾等は四月十六日の皇許により英國の黴毒撿查條例全廢に歸したるを尤も深く慶喜し大英國に於ける矯風主義の友人が其の大勝利を獲たることを熱心に祝賀すべき事を決す

○小石川婦人談話會と云へる者を府下の小石川に設け毎日曜日に經濟、衛生、脩身等に關する講話を聽聞せしめんことを計畫する人あり聞く所に依れば小石川區内は貧賤無學の人例外に多き所ある由なれば特に如此き會あるは甚た適當なることなり發起人某氏は今ま其準備に盡力中なれバ遠からずして開會を見るの喜あるべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●第三回懸取文 として日本婦人授産策の問題を掲げたる以來先月末迄に寄送の答文總て廿一編あり此内女流の手に成れる者僅かに三通ありと雖も大抵皆な精密の議論なれバ前二回に比して効果の更に大なるを喜ぶべし當今社員點撿の最中なれバ遠からざる内に受點の文章を附錄とし掲載すべし

○裁縫所　麻布仲の町に設置ありたる裁縫所は世上にありふれたる仕立物指南所などの弊風を矯め女子に裁縫を學バすると共に道德上の談話をも聽かせ傍ら望によりて英學をも教授し時々學士を聘して有益の講義を聽聞せしむる等を主義とする者なる由女子の職業を必要とする今日に當りては甚だ大切なる教授と云ふべし

○婦女共愛會　同會は臺町一致教會員岡見英珠同なを同すみ同じづ同けい諸子の發起にて會員各自の手藝にて作爲したる細工物を販賣し貧究にして學校に入る能はざる者或は病者の藥料等に乏しき者を救助するの慈善を主義とし又婦人互の交際親睦を篤くするを目的とし明治十七年九月組成したれども振起せざる傾きありしが本年一月會務を改頁し且つ米國女教師ウエスト氏の賛成補助を得て毎月曜日午後より芝白金猿町の岡見氏宅に會し婦人毛糸細工を教授する事となりたれば追く會員も增加し毎會二十五名乃至三十名の出席あり近來漸く其目的を達せんとする有樣に至りしよし

○遠江佐野豐田兩郡の婦人　遠江國佐野郡日坂宿の婦人職業を記さんに大抵は下婢奉公に出る者最も多く中等以上の婦人にして一家の妻たるものは別に職業なく少女は飲食店に居るもの多し中等以下ハ大抵東海道ゟ有名なる小夜の中山新道の登口に荷車の來るを待ち受け俗に云ふあとをしをなして甚だ僅少の賃錢を得て生計の補とす豐田郡の北部に西の渡と稱する村落あゝ山中とは云へ繁華の地にして旅人も多く入り込む處なるが此の地婦人ハ多く密賣淫をなし世渡りとなす故に伊勢參宮の旅人等時として甚だ迷惑なる事ありと同地の醫師の話しに童男童女は梅毒を惱む者多く十中の五六は軟性下疳を病むと歎息の外なし(掛川、中川孫三郎報)

○群馬縣前橋婦人會　今度同地の婦人連は表題の如き會を設けたるよし其目的は婦人の智識を開き其の地位を高尚ならしむるにありて其設立に盡力するものは豪商學者銀行會社員官吏等の細君なるよし先づ當分は有名なる人々を聘し談話等を聽聞し且毛糸編物等の研究を成す筈にて來る第三土曜日を以て同所の臨江閣に於て第一會を開かるゝとの事追々婦人の

智識交際を開き男子處世の良友を得るに至るは豈喜ぶべき事ならずやト朝野新聞に見ゆ

○上毛地方婦人大親睦會　は去る三十日碓氷郡松井田驛に於て開き前橋、甘樂等より遠路を厭ず來會せられ百人餘の姉妹熱心なる感話と祈禱をなされたるよし

○婦人交際會　丸岡掌典の夫人には今度高知縣婦人交際會と云へるを設けしに谷子爵夫人を始め同縣出身の各夫人方おひ〳〵入會ありて既に百三十餘名に及び此後は毎月一回開會の筈なりと云ふ

○福岡婦人の職業（前號の續き）　商家ハ各自の家業を手傳ふるの外博多しぼり久留米かすり小倉織等ハみな婦人の職にして是皆本縣の產物なり就中盛なるハ久留米かすりにして其職工女の熟練なる實に驚く程に候上座下座夜須の三郡ハ製紙上妻下妻の二郡地方にてハ製紙製茶共に盛にして是亦本縣の產物なるを以て該業に從事する婦人極て多し農家の婦女ハ毎日男子と共に田畠に出で耕作草芥等に從事し或ハ山へ行き（山中林間に於て松葉枯木等を採集するを云）雨天夜中等ハ綿くり米つき糸ひき繩綯等にして其他草履作り織物（しまかすり共）裁縫共自家用の衣服ハ皆婦人のたんにんにして自から製する所たり本縣ハ東北南の三面ハ海に瀕するを以て沿海の地ハ皆漁網を業とすれハ子女も男子と同しく海濱に出で夏ハ炎天に焦されて暗黑となり冬ハ寒風にさらされて手足あかぎれを生するをもいとわず生活に汲々たり此の如き地方ハ婦人の敎育はおろか父兄にしても一丁字も知らざる者多くかつ少しも恥ずるの色なし妾右等の報道をなすと共に世の賢明なる諸君に希ふ我國の婦人が右に述べし如き無職に安じ一生涯の浮沈を男子に委す如き惡弊卑屈心を一洗するの良法を敎示あれ感止まず風俗の一斑を報ずると如此に候福岡天神町甫守はる報ず

○婦人禁酒會　過日婦人禁酒會員レビット夫人岡山へ行かれ同地基督敎會堂にて演說ありし以來同地婦人社會にて奮發して終に岡山婦人禁酒同盟を結びしが此ほど會長（一名）幹事（五名）書記（一名）會計（一名）を撰擧して會務の整理を圖らる

○女工敎授　新潟東大畑通天主敎々會堂にてハ望みのものへ女子の手藝を敎授せるが同通二番町古川善五郎の妻某は同所の敎授を受け組糸莫大小編もの丶第三科を卒業し敎師ウヰタリン氏より卒業證を下附せられしとの事あり

○婦人の手業　日下知事の令室は平素に編物杯を手業とさるゝ由あるが紳士紳商の婦人方出會の時も話の間には毛糸の襟卷などを編るゝとか其は一般の婦女子を奬勵の意をも込て編るゝ手業あるべく奥床しき話にこそ侍ると其地の新聞に見ゆ

○看護婦　東京府臨時病院看病婦追沼いせ駒込避病院看病婦佐々木すゞ本所避病院看護婦田中常の三人は同院へ雇ゐれ中虎列剌病に感染して死亡したるに付去九日府廳より遺族へ扶助料として四十圓宛埋葬料金十圓宛を下賜せられたり看護の爲に命を落すは死して實に榮あるとと云ふべし

○伯林の學生　本年四月一日の調査に據れば伯林府には王國高等女學校二、同府立五、諸協會の監督の下に在る女學校三、同男女學校五、公立學校男子生徒の數九万九百十名にして女生徒は七万八千七百五十八名なり又生徒の數を宗敎によりて區別すれば耶蘇新敎を奉する女子生徒八万三千三百名舊敎を奉する女生徒四千七百五十名猶太敎を奉する女生徒四千八百六十一名耶蘇敎及猶太敎に屬せざる女生徒二百五十四名なりとぞ

○落語の改良　寄席にて落語家が語る噺は酩酊、淫奔、の事多く轉た人を猥の道に導くの害多き者あれば吾人は夙に之を慨き屢ゝ當路者の注意を仰ぎたり然るに近來寄席警察の事甚た嚴密となり噺方改良の心得等をも說諭ありし由に聞き慶賀の至に堪ずすでに去五日の時事新報に云く府下の落語家は圓朝を初として圓遊、燕枝、柳枝、圓太郞、文樂などが其筋の諭達に基き先頃より噺改良の事に就き度々相談を遂たる由なるが改良と云ふて噺の品格を高尙にするなどの事は中々困難の事ゆえ先づ成べくは猥褻なる噺を止め又卑陋なる言語は成べく遣はぬ樣に注意し逐々に改良するとに略ぼ決定し既に二三の席亭にては大に噺の風躰を改めたる所ありといふ因に目下府下にて噺家の數は三百七八十人もある中にはいよ〳〵改良の說行れて噺の品格が高尙になりては迚も我々風情の及ぶ所に非ずとてこの程廢業屆を差出したる者三十餘名もありと云ふ

○女學校　神田の女子職業學校は既に滿員となりて生徒の入學を謝絕す。明治女學校には新に戸川小鹿氏を敎員とせり。櫻井女學校にては今度幼年生に特別の寄宿舍を新設したり同校敎師の盡力さるゝ八王子女學校又追々に隆盛の由。橫濱フェリス女學校は去八日夜隣家より失火し餘程危險なりしが盡力により遂に無難なりき。大坂に一致女學校を新設し櫻井ちか子を監督とし去月開校の式を行れたり

廣告

女學書類取次

婦人地球週遊記(一冊)英國ブラッセー女著、内田彌八氏譯。定價七十錢。本誌第廿六號に批評あり。

日本之意匠及情交(一冊)田口卯吉君著。本誌第廿七號に批評あり。定價十五錢。郵税六錢。

賢女脩身事蹟(三冊)今川肅君著。本誌第廿八號に批評あり。定價三十六錢。郵税十二錢。

ひざもとの教(一冊)近藤眞樹女著。本誌第卅二號に批評す。定價十錢。郵税四錢。

いへのをしへ(一冊)松山高吉君著。本誌第卅四號に批評す。定價三錢。郵税二錢。

日本婚姻の弊害(一冊)大島盛三君著。本誌第卅五號に批評す。定價十二錢五厘。郵税四錢。

看病の心得(一冊)笹川純一君著。本誌第卅五號に批評す。定價三十錢。郵税六錢。

演劇改良論私考(一冊)外山正一君著。本誌第卅六號に批評す。定價二十錢。郵税四錢。

社會改良と耶蘇教との關係 同前著。本誌第卅九號に批評す。定價廿五錢。郵税六錢。

小兒健全示要(一冊)岩田文吉君著。本誌第卅六號に批評す。定價四十錢。郵税十錢。

女子必讀(一冊)進藤直温君著。本誌第卅七號に批評す。定價五十七錢。郵税十錢。

朗闌夫人傳(一冊)坪内雄藏君譯。本誌第卅九號に批評す。定價六十錢。郵税十錢。

日本婚姻法論畧(一冊)鈴木券太郎君著。本誌第卅八號に批評す。定價五十五錢。郵税十錢

日本婦人纂論(一冊)井上直女編。本誌第卅號に批評あり。定價二十六錢。郵税六錢。

(右取次賣捌) 東京本郷弓町一丁目廿番地 **女學雜誌社**

基督教新聞

第百七十二號 十一月十日發兌 (定價金三錢郵税壹錢○毎水曜日刊行)

目次○(一)大説教會の計畫あるを聞く(二)眞理ハ自由を生す○教報○論説(一)基督教證據論(其二)(二)説教演説の勢力ハ何邊に在るやを論す○雜録(一)ピータル、ワルドーの感化(二)ヂヨン、ニユートンの感化(三)小臣よりも尚ほ愚かる者あり○雜報及社評○英文教報○社告○廣告

發行所 東京々橋區瀧山町六番地 **警醒社**

●教育時論第五拾六號 明治十九年十一月五日發兌

○社説各府縣の私立教育會○論説現今教育上ノ一疑問(能勢榮)○學術裘氏教員養成論(松島剛譯)マクナブ氏植物學(佐藤龜世譯)○雜記英文三節、家庭教育(二題)○傳記彌爾學術傳(町田則文、田中登作合譯)○論題高等小學ニ於テ實業教育ニ充ツヘキ時間及學科程度(二題)○女子ノ教育ヲ普及セシムル方案(三題)○内外雜纂三十件○官報抄錄○廣告數件

發兌所 東京下谷區練塀町十四番地 **開發社**

○東京經濟雜誌

第三百四十二號 十一月十三日發兌

目錄◎官令、數件◎社説、東京府下地方税ノ增加、日本銀行營業進歩ノ實況、英船ノルマントン號ノ沈沒事件◎寄書、支那人移住ヲ論シテ重テ欸冬居士ノ説ヲ反駁ス、娼妓廢ス可ラズ◎雜錄及商況、數十件(一冊價金八錢郵税共金九錢)

日本開化史

田口卯吉著中根淑先生跋

全六冊

●舊定價一圓二十錢 ●改正定價九十錢

此書は日本開闢の初より戊辰の變に至るまで政治上社會上及人心上に顯はれたる事件を記載し其原因結果を說明したるものにして高等女學校明治女學校其他數多の學校の教科書となりたれバ此度定價を減し聊か江湖の愛讀に報ひ候也

東京々橋區彌左衛門町七番地 **經濟雜誌社**

○同日本橋區通二丁目小林新兵衛○同通三丁目丸善書店○同神田區猿樂町三丁目中央堂

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

裁縫所案内

一我が裁縫所は浮薄の風を除き凡て誠實ならんとを要すれば習業の貴婦令嬢等猥褻なる談話粗慢なる行爲あるべからず

一教場に在ては專ら教授者の指揮に隨ふべし

一授業時間は毎日午前八時より初め平日は午後五時土曜日は正午迄とす(午前午後のみ來るも妨なし)但し日の長短に因り伸縮することあるべし

一日曜日大祭日及夏期休業として八月一日より九月一日迄冬期休業として十二月廿五日より一月十日迄休業のこと

一裁縫は毎週午前午後とも教授し毛糸編物類は月水金ならし繪縫取切ばめ等は火木曜日の午後之を教授す

一毎週一度外國婦人ヨ屬して高等なる編物を教授す

一全科を修むる者は月謝五拾錢裁縫或は編物等たゞ其一を修せんとする者は月謝卅錢を納むべし(月謝は毎月五日迄に納むべきものとす)束脩は三拾錢初て來習の時に納むべし但し習業に熱心にして月謝を出し能はざる者には其事情により或は減格或は無謝義にて教ふることあり

一當所は授業の餘暇廣く公衆の需要に應し廉價はた約束の時を違へざるを旨として新古の衣類を裁製洗縫し又編物ならし繪等の依賴をも諾すべし

一生徒の望みに從て英學を教授し有識の學士に依賴して家政經濟終身等の談話講義を便時に開くべし

但英學を學ぶ者は別に月謝三十錢を納むべし

○裁縫手數料表

○縮緬紋付類 一ふり袖紋付四拾錢。並袖一縮緬裾もよう三拾五錢。一同むじ三拾錢。一裾もよう給三拾錢。一同むじ廿八錢。一裾もよう單衣廿三錢。一同かたびら廿三錢

○縞ものゝ小袖 一男着廿二錢。一女着廿五錢。一男給廿錢。一女給廿錢

○羽織類 一男給羽織十八錢。一同わた入同。女わた入羽織廿錢

○帶るい 一錦女帶廿錢。一腹合帶廿錢。一男博多帶十八錢。

○小倉帶八錢。

○もめんるい 一男女ゆかた八錢。一同かたびら十五錢。一單衣羽織十五錢。 一男女わた入十三錢 一同羽織十五錢 一半天拾錢 一襦袢四錢

其他は御好次第により差等あり

麻布仲之町廿番地長田方 裁縫所

定價

一冊。五錢 郵稅。一錢 (但府內無郵稅)
十冊。四十八錢郵稅。十錢 (同前)
廿冊。九十錢 郵稅。廿錢 (同前)
卅冊。一圓卅錢郵稅。卅錢 (同前)

一ヶ月分女學雜誌代價十五錢 府外へ十八錢
二ヶ月分同 三十錢 府外へ三十六錢
三ヶ月分同 四十五錢 府外へ五十四錢
半年分同 八十八錢 府外へ一圓六錢
一年分同 一圓六十錢府外へ一圓九十六錢

廣告

一行 一回 (廿八字詰) 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町 嵩々堂
東京芝西久保櫻川町 萬春堂
東京神田區雉子町 圖々社支店
同神田區佐柄木町 東海堂
同日本橋區新葭町 眞明堂
同日本橋區馬喰町二丁目 自由堂
同京橋區木挽町壹丁目 萬字堂
同本郷區元富士町 盛春堂
同本郷區春木町二丁目 解明堂
京都四條通小橋へ入 澤集光堂
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地 伊勢安支店

發行所 本局 東京本郷弓町壹丁目廿番地 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 six months, *yen* 1.96 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Yumichô, Hongô, Tôkyô.

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

一授業時間は毎日午前八時より初め平日は午後五時土曜日は正午迄とす（午前午後のみ來るも妨なし）但し日の長短に因り伸縮することあるへし

一日曜日大祭日及夏期休業として八月一日より九月一日迄冬期休業として十二月廿五日より一月十日迄休業のことゝ

一裁縫は毎週午前午後とも教授し毛糸編物類は月水金おし繪縫取切ばめ等は火木曜日の午後之を教授す

一毎週一度外國婦人を屬して高等なる編物を教授す

一全科を修むる者は月謝五拾錢裁縫或は編物等たゝ其一を修せんとする者は月謝卅錢を納むべし（月謝は毎月五日迄に納むべきものとす）束脩は三拾錢初て來習の時に納むべし

但し習業に熱心にして月謝を出し能はざる者には其事情により或は減格或は無謝義にて教ふることあり

一當所は授業の餘暇廣く公衆の需要に應し廉價はた約束の時を違へざるを旨として新古の衣類を裁製洗綴し又編物おし繪等の依頼をも諾すへし

一生徒の望みに從て英學を教授し有識の學士に依賴して家政經濟終身等の談話講義を便時に開くへし

但英學を學ぶ者は別に月謝三十錢を納むべし

○裁縫手數料表

○縮緬紋付類　一ふり袖紋付四拾錢。並袖一縮緬裾もよう三拾五錢。一同むじ三拾錢。一裾もよう袷三拾錢。一同むじ廿八錢。一裾もよう單衣廿三錢。一同かたびら廿三錢

○縞もの小袖　一男着廿二錢。一女着廿五錢。一男袷廿錢。一女袷廿錢

○羽織類　男袷羽織十八錢。一同わた入同。女わた入羽織廿錢

○帶るい　一錦女帶廿錢。一腹合帶廿錢。一男博多帶十八錢。

○小倉帶八錢。

○もめんるい　一男女ゆかた八錢。一同かたびら十五錢。一單衣一羽織十五錢。一男女わた入十三錢一同羽織十五錢一半天拾錢一襦袢四錢

其他は御好次第により差等あり

麻布仲之町廿番地長田方　裁縫所

價　廣　告

一ヶ月分女學雜誌代價	十五錢	府外は十八錢
二ヶ月分同	三十錢	府外は三十六錢
三ヶ月分同	四十五錢	府外は五十四錢
半年分同	八十八錢	府外は一圓六錢
一年分同	一圓六十錢	府外は一圓九十六錢

一行　一回（廿八字詰）前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMEN'S MAGAZINE
"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 s
ths, *yen* 1.96 per annum, in advanc
Edited and published by Y. H. I
at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Y
Hongô, Tôkyô.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町	畿々堂
東京芝西久保櫻川町	萬春堂
東京神田區雉子町	團々社支店
同神田區佐柄木町	東海堂
同日本橋區新葭町	良明堂
同日本橋區馬喰町二丁目	自由堂
同京橋區木挽町壹丁目	萬字堂
同本郷區元富士町	盛春堂
同本郷區春木町二丁目	解明堂
京都四條通小橋へ入	澤集光堂
大坂備後町四丁目	岡島支店
伊勢國松坂白粉町	家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地	伊勢安支店

發行所
東京本郷弓町壹丁目廿番地
本局　女學雜誌社
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豐